

## 苦勞して登ったピーク

### 及K

10月5日(日曜日)朝、8時過ぎに浦山口キャンプ場を車3台で出発。諏訪山登山口に車3台を停め、その内2台はその後八丁トンネル登山口まで移動し駐車。その運転手の皆さんが諏訪山登山口まで戻ってきてから、登山を開始した。

尾根コースを1時間10分ほどかけてコース分岐まで登る。土の上であり、危ないところもなく快適な登山道であった。登山道の左側少し上部に、登山道に沿って柵が諏訪山頂上近くまでずっと続いていた。

10時30分、諏訪山、標高1207展望は東側方面の一部のみ見えた。尖った急角度の山々が、緑濃く紅葉はまだだった。

その後、人の歩いた跡がない、赤いリボンの印もないような、道であった面影が微かにある旧登山道を、行き先を探しながら歩いた。手に掴もうとすると、土からすっぽり抜けそうな危なげな枯れ木や朽ちた木が多かった。

蓬莱山にたどり着いたのは、12時20分頃。標高1377頂上だと書かれている鉄柱の標識は、青い紐でぐるぐる巻かれた簡素なものだった。

蓬莱山から、八丁尾根へ赤岩尾根に続く登山道の道に出たいという要望で、分岐の1589ピークを目指す。この道が急登で、道が分かりづらいし、朽ちた木も多い難所の道であった。

どれが登山道か分からず、度々塩田さんが偵察に行き、こっちだという報せを待って登った。岩場の箇所もあったが、足場があるのなんとか登れた。すると、いきなり赤いリボンのここが登山道ですよという印がここにあった。間違ってたのかもしれないという安心感、ホッとしたのと、塩田さんや皆さんの方角選択の確かさに脱帽！ 登っている途中の、わずかに平らそうな場所で、皆で昼食をとる。

苦勞して登った1589ピーク、13時40分に到着。南方面が開けていて眺望が素晴らしい。

この1589ピークは綺麗に紅葉している。風もなく、穏やかに太陽が降り注ぐこの頂きに、小川さんは大きな平らな岩の上にゴロンと横になってしまった。皆、満足しながら眺めを楽しんでいたが、八丁峠へと下山を開始。120m程下り、そして1

00m登って、また下るといってアップダウン。標高1490mの位置に八丁峠があった。14時20分、八丁峠着。分岐に立派な標識。しっかりした立派な椅子とテーブルが置いてある展望台があった。そこから40分をかけて八丁トンネル登山口に行く。土の上を歩くと、危なげのない登山道である。登山口には新しい立派なトイレがあった。駐車してあった車2台に便乗し、諏訪山登山口まで移動。そこで車3台になり、各々乗車し、解散となった。



# 山仲間の声や息遣いを感じて―

## 志賀坂峠から八丁峠

○野

10月4日8…20分頃、埼玉・

群馬県境の志賀坂峠で同乗者5人を下して、3台の車で八丁峠に向かう。2台を駐車場に置き

志賀坂峠に戻り、9時過ぎ最初のピーク諏訪山1207mに向け

出発。高度を上げるに従い、背後に二子山が樹林の間から見え

だす。よく整備された登山道で、8分位で着いた。秋晴れの空の

下、武甲山、そして小学生の頃から眺め続けている笠山が見えた。

2番目のピーク蓬萊山に向かう。途中、志賀坂峠と八丁峠を結ぶ林道と合流する。合流点から先は道が不明瞭、県境を記す赤い杭が道標の役をする。シャ

クナゲを漕いで急登を登り、着いた頂上にはそれを示す青いブ

リキの標識が樹に括りつけてあった。12時20分頃。赤岩尾根、

その右遠方には噴煙を上げる浅間山が展望できた。

ここで、林道合流点まで戻り、林道で八丁峠に行くことも考え

たが、時間も、メンバーの気力・体力にも余裕があつて、県境を

1589mピーク（無名峰）まで行くことにした。ここからは急登

で、踏み跡すらなく、登りやすそうな斜面を進むうち、県境の

杭も見失った。ルート探しに立ち止まることが数度、頂上事前

でどうとう行き止まった。樹をつかんで、岩壁登りかと思つた

ら、足元から少し下つたところ

からルンゼが右上方へ上がっている。そこを塩Dさんが偵察

に行つて、OKが出る。転滑落の危険はないが、慎重に声を掛け合つて登り、平らな所へ到達。

やれやれ、安心したら、お腹が空いた。昼食。ここからも急登

で気が抜けなかったが、時間と体力の余裕が安心・安全に役立

つた。ピークに13時40分到着。両神山から狩倉岳へ伸びる尾根

は指呼の間だ。大岩に仰向けに寝転ぶ仲間もいる。

ここからは、梯子が壊れるなど一部悪い所もあつたが、立派

な登山道を八丁峠へ、さらにその駐車場まで下りた。15時山行

終了。

前日3日は、会の50周年記念

で30名程で秩父市奥橋立の市有林に植樹を実施した。夕方か

らはその慰労を兼ねて、大宮労山祭を近くの浦山口キャンプ場

で開いた。そして4日、そのメ

ンバーが、6グループに分かれ、武甲山、若御子山、狩倉岳、二

子山、蓑山、県境へと向かった。岩あり、藪の岩尾根あり、ひっそりとしたハイキングありとい

つたところだ。そのうちのほとんどを眺めながら県境を歩いた。

すると、秋晴れの大気を通して、他の山を登っている仲間の声や

息遣いも伝わって来る気がした。今後も、会員のさらにバラエテ

イ豊かな山行を支える山岳会にしたいと思つた。

メンバー（L）○野、及K、加T、島D、I村、石D、O川、

塩D。

\* 時間等、及Kさんの記録を参考にさせて頂きました。

# いい勉強になった蓬萊山

K藤

蓬萊山から1589m峰までのバリエーションルートがエキサイティングでした!!

知ってるルートであれば、危ない箇所は特にないし、問題ないとは思いますが、もし、初めてで、ソロで行ったと考えると、ちよつと無理そうで、林道へエスケープしていただろうと思います。

完歩できた要因としては、① 天気がよかったこと、② ソロではなかったこと（会の山行は、やはり可能性が広がりますね）、③ 時間的な猶予があったこと、④ ほんの微かではあったけど、人間が歩いた痕跡があったこと、等、条件が重なって、非常にラッキーでした。

個人的には、GPSで、1589m峰への稜線から外れていないことを時々確認したり、頂上までの標高差を把握して到着時刻をシミュレートしたりといい勉強になりました。

逆に言うと、もし、ソロで、GPSの電源が切れたりすること考えると、難易度が格段に上がってしまうと思え、岡野会長が「機械に頼っちゃいかん!」の言葉が胸に響きました。

